

第12回『議会報告会・意見交換会』

生きた政策提言づくり に向けて



12月17日（日）、第12回『議会報告会・意見交換会』を市議会において開催しました。

本市議会ではこれまで、各常任委員会が2年ごとに調査・研究するテーマを設定し、視察や意見交換を行い、市長に対し政策提言等を行ってきました。今回も、その内容について市民の皆様からも意見をいただきたいと考え実施したものです。

今回は、中学生から70代までの40名の方々に対面でご意見をお聞きする形式で行いました。

総務文教常任委員会

テーマ

『持続可能な地域公共交通を
目指して』

民生常任委員会

テーマ

『米沢市の防災・減災を
考えよう』

産業建設常任委員会

テーマ

『空き家・空き地を活かし
米沢を未来へ』

私たちの暮らしになくってはならない車。でも、もし車を持っていなかったら？免許を返納したら？車がなくても暮らし続けられるためには公共交通の充実が必要不可欠です。私たち総務文教常任委員会では、「持続可能な地域公共交通を目指して」をテーマに設定し、政策提言に向け活動しています。11月に行った管外行政視察では、デマンドタクシーやコミュニティバスなどの視察を行ってまいりました。それぞれの地域事情に合わせた市民が利用しやすい交通機関であることだけでなく、市民が自分たちで公共交通を『乗って支える』意識を醸成する取組の重要性を学んできました。

総務文教常任委員会



バスチケットの配付、カーシェアリングの導入などの意見が出されました。③では、バスの利用を促進するイベントの開催や支援、「少し不便でも公共交通を使っていこう」という市民の意識の変容が必要だという意見が出されました。

住んでいる地域も様々で多様な視点からご意見をいただきました。①では、バス停が遠い、便数が少ないなどバスに関する事、また、デマンドタクシーについては、乗降エリアが限られ、対象地域以外の人は利用できないことやダイヤが不便なことなどが挙げられました。②では、市内全域へのデマンドタクシーの拡充や免許返納者へのバスチケットの配付、

議会報告会・意見交換会では、冒頭に趣旨説明と視察地の事例紹介を行い、その後に議員8名を含む19名が3グループに分かれ、①ここが問題、米沢市の公共交通②公共交通、どんなのがいい？③そのために何が必要？の3つのテーマについてワークショップ形式で話し合ってもらいました。参加者は学生や高齢者など、年齢や職種、

市民や交通事業者など様々な人たちの想いがひとつになって成り立つものです。そのために関係者の想いをつないでいくことが行政や議会の大変な役割です。皆様からいただいたご意見を参考に、課題を整理し、未来に向けた政策提言ができるように取り組んでまいります。

総務文教常任委員長 古山 悠生

民生常任委員会では、市民14名と、委員に議長を加えた議員8名が3グループに分かれ、自主防災組織にテーマの範囲を絞ってグループワーク形式で意見交換会を行いました。

初めに、民生常任委員会で視察してきた松山市・新居浜市・坂出市・倉敷市の、自主防災組織の在り方の事例紹介と、本市の自主防災組織の現状と課題を説明しました。

参加者からは、「防災教育について、学校でハザードマップを学んだり、参観日に防災訓練をしたりしてはどうか」「山形県には、活断層型地震の発生確率の高い地域が固まっているので、防災教育に生かせるのではないか」、また、「経験者

（消防士）などから講義をしてもらいたい」との意見があり、参加した消防署員から、「発信したい消防士がたくさんいるので、活用してもらいたい」との提案がありました。

「防災士については、防災士が何をやる人か分からないので、役割のアップルが必要だと思う。」「防災士をもっと増やし、町内に最低1人の防

民生常任委員会



災士を養成するように市が支援すべきだ。」「防災士の集まりや情報交換会を提案しているがなかなか行わない現状である。」「若い人の防災意識を高めるため大学（山形大学工学部・米沢女子短期大学・米沢栄養大学）に防災士養成講座を設けてもらい、若い人が参加できるような仕組みを作ってはどうか」との意見がありました。

自主防災組織については、「町内会役員と自主防災組織の役員を別に担当したほうがよいのではないか」「リーダーとして動く人がいない」との意見や、自主防災組織の活動での要配慮者のケアについては、個人情報保護の観点からなかなか踏み込めない

が、玄関先に色分けしたカードを出して、状況を把握している地域の例も出されました。

今回の意見交換会でいただいた貴重な意見を参考にして、防災・減災について政策提言に向けて検討を進めてまいります。

民生常任委員長 関谷 幸子

空き家や空き地を米沢市の空間資源として捉え、皆さんで「トライ」しようとの呼びかけに15名（内2名中学生）の市民の方々にお集まりいただきました。

まず、委員長から米沢市空家等対策計画（中間見直し）について、市民からのアンケート調査内容や実数による本市の実態について課題提起を行い、議員8名を含む23名で3班構成のワークショップを行いました。

私たちが目指すべきは、旅人を大切にする街、新しい宿場町をつくること、出入りが活発で、人口が増える街をつくりたいということであり、その魅力は、誰にとつても感じられるよう、できるだけ皆で計画するべきという意見。また、人口減少や少子化といった問題に対しても、米沢の魅力である大

産業建設常任委員会



タイヤ、冬期間中の自転車の保管場所、レンタルスペース、排雪スペース、民泊（シェアハウスなど）、学生が活動できる場所、犬の遊び場、運動場、太陽光パネルの設置場所など、さまざまな用途で空き家や空き地を活用するべきという意見。空き家の整理やリフォームを通じて、移住希望者の体験宿泊にも利用し、地域の高齢者が話せる居場所、サークルや学生

団体が気軽に利用できる場所、にぎわいを作る場所に活用すべきという意見。

実現に向けた必要な手段としては、空き家や空き地のランク分けによって、それぞれの有効活用方法を検討することや、無償利用の枠組みを設け、所有者と市が利用できるような新たな仕組みをつくること。学校教育でも

空き家セミナー等を題材に将来への意識醸成を図ること。最終的には空き地を買いやすいようにする条例の制定も含めて、ご意見をいただきました。

私たちは、今回の意見交換会でいただいた意見を政策提言に活かし、地域の活性化と持続可能な未来を目指してまいります。

産業建設常任委員長 影澤 政夫